

## 開会挨拶

上田：こんにちは。今回は研究セミナーという形で行いますので、一方的に話を聞くというよりは、フランクな雰囲気です。いろいろな議論をしながらできればと思っています。

私、今回進行を務めさせていただきます。立教大学アジア地域研究所所長の上田と申します。われわれのプロジェクト、「21世紀海域学の創成」についてすこし説明いたしますと、立教大学のアジア地域研究所のほうで文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業というプロジェクトに応募して去年採択されたもので、今年で第2年目になります。ここではアジア地域研究所が所蔵していました外邦図および、通常私たちが水路図と呼んでいるものを共通のプラットフォームにして、過去から現在とをつないでいくということをプロジェクトとして続けております。

しかし、今から50年以上前にアジア地域研究所がこの外邦図というものを受け取ったのですが、その整理はあまり行えずにありました。それをわれわれが引き受けたものの、どのような資料なのかということの全体像や、どのように形成されてきたのか、そしてどのようにして立教大学にもたらされたのかということも、耳学問的に伝承という形で聞いていただけで、実を言うと学術的にきちっと裏付けてこなかったわけです。

今回、外邦図および水路図のそれぞれの方をお呼びしました。どういうものが外邦図であるか、どのように形成されてきたのか、そして、外邦図というものがどのように利用可能なのか、ということについては、小林茂先生から。そして水路図あるいは海路図、今日のお話の中で、どのような呼び方が一番ふさわしいかというような議論にもなるうかと思えますけれども、それに水路図とわれわれが通称していたものにつきましては、今井健三さんからお話を伺うというふうな流れとなります。

本会は、われわれが引き継いできたものをこれから具体的にどうするかというところで、ステップを一段上がる感じの研究セミナーになろうかと思えます。皆さんがそれぞれ疑問に思っていたことを、ぜひ小林先生、今井さんにぶつけていただければ、いうふうに思えます。

それでは、今日の流れですけれども、小林先生のほうに、まず外邦図についてお話をいただき、その後、立教大学観光学部の舛谷のほうから、外邦図に関してのコメントしていただきます。続いて、今井さんのほうから報告をいただき、今井さんの報告に対しては、亜細亜大学の犬塚先生のほうからコメントをいただくというような形にしたいと思います。そして、最後のディスカッションというような流れにしまして、外邦図・水路図についての疑問点を明らかにしていければと思います。

外邦図と水路図